

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2014

Date: 平成 28 年 6 月 2 日

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ講座Ⅱ 准教授
氏名 Name	松本健二
専門分野 Academic Field	ラテンアメリカ文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	チリにおける反詩の系譜：ニカノール・パラとエンリケ・リンの文学に関する 総合的研究
<p>上記の平成 26~28 年度科学研究費基盤 C (番号 26370386) の 2 年目を研究計画に従って進めた。</p> <p>今年度はエンリケ・リンにおける反詩の実践とその影響を分析するに当たって必要な資料の特定とその入手作業を中心に進めた。具体的にはまず過去 10 年間の米国博士論文におけるテーマ設定や資料の扱い方を分析し、その結果、リンの詩などの作品分析から美術系の批評言説をも対象とした論考が増加傾向にあることがわかり、そこで中心的な参照対象となっている資料を特定した上で、平成 28 年 3 月 15 日から 27 日までの日程でチリ国サンティアゴに出張し、現地の国立国会図書館文書保管所等を中心に収集を行なった。詩全集が刊行されていないリンに関しては韻文テキストの全体像を確定しておくことも急務であったが、ディエゴ・ポルタレス大が続刊中の作品集を入手し、関係する批評言説をまとめた最新の資料集も入手した。そのうえで第一詩集『暗い部屋 (<i>La pieza oscura</i>)』における反詩的な要素を中心に考察をした結果、リンの詩作におけるアイロニーが先行するニカノール・パラのそれとは異なり極めて「私的な要素 (lo íntimo)」をめぐるある種《反公共》の詩学に貫かれているという結論を導いた。創作者の私的なものを中心として既存の公共美学を攻撃対象とするこうした前衛文学特有の姿勢はリンによる美術批評言説にも見られる大きな特徴で、リンにおいては創作と批評言説、さらには舞台芸術や路上でのパフォーマンスなども含めた表現行為との間に密接な関係があることも分かってきた。</p> <p>いっぽう前年度に研究を進めたニカノール・パラについてはその第一詩集『詩と反詩』の文学史的な位置づけを論文『躍動するアイロニー—ニカノール・パラ『詩と反詩』に関する一考察』(『Estudios Hispánicos』40 号、大阪大学外国語学部スペイン語部会、平成 28 年 3 月 30 日、pp.39-64) にまとめた。</p> <p>また、平成 23~25 年度科学研究費基盤 C (番号 23520428) 「ヨーロッパを再発見するメスティソ：セサル・バジェホの中後期言説の総合的研究」の成果を元にした翻訳書『セサル・バジェホ全詩集』(現代企画室、平成 28 年 7 月刊行予定) の刊行へ向けた準備も継続して進め、その翻訳の仮定で得た知見を論文「詩の言語間翻訳は不可能か?—セサル・バジェホ全詩集日本語翻訳における諸問題」(『EX ORIENTE』23 号、大阪大学言語社会学会、平成 28 年 3 月 31 日、pp.1-23) にまとめた。</p>	